

「中学生は飛躍のチャンス」 格上の選手と対戦できる環境

中学生が経験の豊富な大学生や社会人選手と対戦しても、時に勝利できる競技、それが卓球です。ここ数年の卓球全日本選手権一般の部でも中学生選手の活躍が目立っています。好成績を挙げて活躍する中学生に共通しているのは、練習に打ち込める環境が整っている上、格上の先輩選手らにいつも接する機会があるということです。

本校卓球部では、中学生が高校生・大学生と同じ施設で活動します。中学生は高校生、大学生との練習を通じて技術力や精神力が鍛えられ、卓球に向き合う意識が育まれます。卓球に対する意識・気持ちが変わると、

選手の表情や目つきが変わり、行動が変わってきます。行動が変われば、技術の向上が早くなるのです。

本校卓球部は、卓球の技術向上にとどまらず、あいさつや礼儀、感謝といった心構えを大切にし、部員の意識や精神面を高めることにも目を配ります。チームワークや思いやりを大切にして部員全員が同じ目標に向かって突き進むチーム作りを目指します。



チームポリシー *policy*

1. 卓球だけではなく、勉強や何事にも一生懸命に取り組む
2. 主体的に取り組み、責任感を持つ
3. 高い目標を持ち、ひたむきに頑張る
4. 挨拶や礼儀・感謝の気持ちを忘れず、応援される選手を目指す

NEWS

石川県全体のレベルアップ を目的に合同練習実施

県全体の卓球レベル向上を目的に、金沢学院大学附属高校卓球部はクラブチーム(小学生・中学生)からの練習依頼があれば、小・中・高で合同練習を実施しています。少しでもレベルアップの手助けになればとの思いから選手たちの指導をしています。

指導者の胸の内

選手の意識・気持ちを変えたと行動が変わる



私が卓球を始めたのは小学校4年生の時でした。町のスポーツ少年団の卓球指導者と出会ったことがきっかけでした。卓球が楽しくて練習に打ち込み、6年生で県の団体戦で優勝を果たしました。ところが、中学に進むと結果が出なくなり、そんな時に練習や試合の様子を見ていた指導者から「意識を変えなさい」と言葉を掛けられました。高い技術を習得したい、さらに上位に進みたいという強い意志を持たなくてはならないということです。私はこの時から、卓球に対する意識・気持ちが変わりました。そして卓球だけでなく、生活面にも意識の変化が現れるようになったのです。選手たちの意識や気持ちをどうすれば高めることができるかを研究し続け、指導に取り組んでいます。

福田 浩之 監督

石川県立七尾商業高校、名古屋商科大学卒業。全日本大会、国体にも出場し、石川県選手権ダブルス4連覇。金沢学院大学附属高校卓球部を長年指導。金沢学院大学職員。

一番の思い出

高校の指導者として臨んだ2019年12月の北信越高校選抜大会。全国大会への出場切符を掛けた決定戦で勝利した瞬間、チームを引っ張ってきたキャプテンの目に涙が見えました。選手たちの顔には、勝利の喜びよりも目標を成し遂げたという安ど感が勝っていたようでした。選手たちの「思い」や「執念」が勝敗を決することを実感した試合でした。これからも選手たちの思いを育み、あきらめない情熱を持つよう指導に当たります。

練習場所

金沢学院大学附属中学校
体育館1階卓球場。

活動予定

平日は授業終了後、2～3時間程度。
休息日を週に1日設けます。

信頼の指導者たち *coaching staff*



コーチ 真田 翼

かほく市出身。金沢学院東高校(現・金沢学院大学附属高校)、富山大学理学部生物学科卒業。石川県内の公立中学校で県大会団体優勝等の指導歴あり、2020年4月から金沢学院大学附属高校女子卓球部顧問。



コーチ 坂本 裕平

七尾市出身。遊学館高校、日本体育大学体育学部卒業。高校時代に北信越シングルス3位・ダブルス2位。インターハイ団体・シングルス・ダブルスに出場。2020年4月から金沢学院大学附属高校男子卓球部顧問。